

上越市、事業者経営支援金制度改善へ



上越市は27日の新型コロナウイルス感染症対策特別委員会で、事業者経営支援金制度を改善するために検討に入ったことを明らかにしました。同制度は、新型コロナの影響で売上が著しく減少している中小企業者などを支援するため、上越市が3月からスタートさせたもので、売

関係者から喜ばれている半面、使いにくいという声もけっこうある。全体としては売上が落ちていても、事業者の努力でひと月だけ伸びることもあるなどの発言がありました。こうした指摘に、五十嵐産業政策課長は、「まだ検討段階だが、支援対象の拡充を考えている。具体

上減少率、売上規模に応じて最大で100万円給付する仕組みとなっていますが、「手続きが難解かつ煩雑である」「『すべての月で売上高が減少している』など支援対象要件のハードルが高い」などの声があがっていました。

委員会では、上野公悦議員などから、「この制度は

的には、3か月以上売上がない場合であっても、従業員手当を出しているとか固定費を払っている場合に対象にすることなどを検討している。連休明けにはまとめる」と答えました。

日本共産党議員団では4月7日、村山市長に新型コロナ対策強化について申し入れ、同支援金制度に関しては、①手続きを簡略にすること、②対象を広げること、③起業間もない事業者も実際に対象になるよう改善することなどを求めています。市が事業者のみなさんの要望をしっかりと受け止め、検討することにしたことは評価したいと思います。

なお、この日の委員会では4月16日現在、事業者経営支援金の申請件数は237件、5944万円にとどまっていることも明らかになりました。同支援金の予算額は3億4000万円ですが、五十嵐課長は今後、申請は増えるともみていると述べていました。今後の動きに注目です。

これに対して市の田中健康子育て部参事は、「県に公開してほしいと要望を出している」と答えました。

高田城ロードレースが中止になる一方で東京オリパラの聖火リレーが行われる予定になっていることについても、「対策はちぐはぐではないか」との質問が出ました。

これに対して市の八木理事が答弁に立ち、「それぞれの主催者の責任の下で、その時点で判断すべきことだ。いまは実施するとしているが、さらなる縮

4月27日の新型コロナウイルス感染症対策特別委員会では、変異株の動き、オリンピック聖火リレーの取組、ワクチン接種についての課題と問題点などについても質疑が行われました。

新型コロナウイルスの変異株は県内でも広がりを見せています。感染拡大を心配する委員から、「変異株をどうブロックするかが問われている。(変異株による感染状況の)情報をつかめないのか」といった質問が出ました。

これに対して市の田中健康子育て部参事は、「県に公開してほしいと要望を出している」と答えました。

ワクチン接種などでも質問相次ぐ



【クサイチゴ】バラ科の落葉小低木。漢字で「草莓」と書きます。名前に草という字が入りますが、れっきとした木です。別名はワセイチゴ。花期は3月から4月。花は白、花弁は卵円形です。花言葉は、「幸福な家庭」「甘い香り」「誘惑」。写真は4月24日、頸城区玄僧にて撮影しました。



はしづめ法一の活動レポート

No.2009 2021.5.2
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら


春よ来い

第六五六回

切り株アート

三月の半ば頃のことです。近くの山林を散策していたら、杉の切り株がふと目に入り、「あれー、これ何かに似ているな」と思いました。

そのとき、すぐには分からなかったのですが、スマートフォン（略称スマホ。多機能最新型携帯電話）で写真に撮り、画面をのぞいて見たらはつきりしました。映し出された切り株は、わがふるさとの山、尾神岳とそっくりの形だったのです。

この切り株は、上から見ると、段差のある二つの平らな部分があり、その二つの間にある細いトゲの塊（かたまり）で構成されています。これまで、私は切り株を上からしか見てきませんでしたが、この日に見た切り株は地上から七〇センチほどの高さがあったことから、斜め上から見ることになりました。この切り株を見たことで、私の切り株を見る目が変わりました。

切り株は上から見ると、横から見ると、あるいはその中間で見ると、見る角度や距離によって、いろいろなものに見えることがわかったのです。

それからというものは、林の中を歩いていても、林がそばにある道路を歩いていても、面白い姿の木の切り株はないだろうかと意識して探すようになりました。

数日後、わが家の近くにある代石池のそばに行くと、まだ切られて間もない木の切り株がいくつもありました。

私は一つひとつの切り株を見て回りました。「おやっ、これは何だ」と思ったのは縦四〇センチ、横六〇センチほどの切り株です。少し離れて見ると、中心部は白く、そのまわりは茶色、さらにそのまわりはまた白色になっていきます。その姿は、海中の火山が噴火を続け、新しい島が誕生してまもないといった感じに見えました。

周辺にある他の切り株を見ても、同じように切り口の真ん中部分に「島」が出来て

いて、中央部と他の場所とを区分するよう色が変わっていました。それぞれの切り株は太さも形も違うのですが、基本的には同じ気象条件のなかで生長していったのでしょうね。このいくつかの切り株を見て、切り株は生育条件によって似た姿になることがわかりました。

四月になっても切り株が気になる状態は続きました。上旬のある日の午後のことです。さわやかな青空が広がる天気だったので、近くの杉林の中に入り、ピンク色の野の花、シヨウジョウバカマを撮っていたら、杉の古い切り株をふたつほど見つけました。

それらの切り株は、切り倒してからかなり過ぎていたようで、緑色のコケのようなものが張り付き、「じいさん切り株」とでも呼びたくなる形状になっていました。

そのうちの一つは、切り倒した時にできたださくれ状のところ白くなっていました。上から見ると、白く、長いまつげのように見えます。私はフェイスブックで「切り株の村山さん」というタイトルを付けて発信しました。それを見た二人の方が、「眉毛そのまま。懐かしい」「座布団七枚！」などといったコメントを寄せてくださいました。やはり、私と同じように、村山元総理に似ていると思ったようです。

切り株は切り倒された当時から時を経てどんどん変化していく、そしていろんな表情を見せてくれます。切り株は自然が作り出すアート（芸術作品）だと思いました。

三月の半ば以降、私が撮影した木の切り株は八〇か所ほどになりました。木の切り株は、人間と同じく、すべて違います。病気になることもあれば、虫に食われることもある。そして時が流れると老化も進みます。その姿はじつに多種多様で、個性的です。ひと月半ほどの間に、私はすっかり切り株ファンになってしまいました。

「ふるさと緑なり」の小野寺さん、今度は感動の人間賛歌

数年前、「ふるさと緑なり」という小説を書かれた小野寺勇さんがこのほど、ふるさと吉川区代石（たいし）を舞台にした本を知活舎から出版されました。

題名は「明るくおおらかに」。これは新潟県上越市の吉川区にある代石という小さな集落である」という書きだしで始まるこの物語は、吉川区代石にある小野寺さんの実家の母親や兄妹などの家族をモデルにしています。

舞台となっている場所は私がいま住んでいるところですので、30～40年前の田んぼなど集落の様子が書かれているだけでも引き込まれます。そこに、善長寺、K子さん、「まるきや」（屋号）、柿崎区荻谷のFさん、西野島のT子さんなど実在の名前が登場していますので、「こたえさんね」ですね。

小説は「けやきんち」（小説上の屋号）のわら二階からキクばあさんが転落し、二度と歩くことができなくなったことから始まって、キクさんの末娘直子の都会人との結婚をめ

ぐる葛藤などが丁寧に書かれています。何よりもいいなと思ったのは、本の題名の通り、キクばあさんや直子がどんな困難にぶつかっても明るく、おおらかに生きていく姿です。どんなに絶望的な事態に陥っても、人間は生きていくことができるよという励ましのメッセージが伝わってきます。

物語の最終盤では、キクばあさんの老いていく過程や「阿弥陀さまにすべてをお任せして生きる」信仰の世界も描かれていて、終活にも役立ちます。私は97歳になった母を想いながら、読み続けました。

「明るくおおらかに」は定価2200円、本屋やアマゾンで注文することができます。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月21日(水)	4月28日(水)
上越南消防署	0.050	0.043
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.053	0.053
頸北消防署	0.057	0.050
頸南消防署	0.060	0.063
東頸消防署	0.050	0.053
名立分遣所	0.053	0.047
高士分遣所	0.050	0.057